

岩手教区報

第324号
 立教182年12月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3番40号
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597

11月初めに、私の長女が通う看護学校の聖華式というものに出席させて頂きました。「聖火(セイカ)」と「精華(セイカ)」の造語で、キャンドルサービスのイメージと学生の理想像の意をこめた、一般的に言う戴帽式です。基礎教育を終えた学生たちが、看護の道を進む決意を新たにす式で、この後は医療現場で看護実習に入るそうです。

今回、この看護学校で聖火を継承した49名の聖華生がおられました。注射が大の苦手な私からしてみれば、よくぞ看護の道を選んできたなあと、感心、感動、感謝せずにはおられません。これから実習に入れば睡眠時間は削られ、食事も喉を通らなくなる事もあると聞きます。皆残らず立派な看護師になつてほしいと願います。

長女が看護を目指した理由は極々単純で、小学生の時、弟が生まれる産婦人科で、助産師や看護師の優しくもたくましい姿に感銘し、新しい生命の誕生に感動した事からです。看護の道を選んだ事に、親として非常に有り難い事とは思いつつも、反面、精神的、肉体的に大変な仕事であろうと心配もしてい



看護の道

二戸支部長 堀口教之

いまや高度な医療と共に全国の平均寿命も年々伸び、2018年の日本の平均寿命は、男性で81・25歳、女性は87・32歳で過去最高を更新したそうです。世界的にみても日本の女性は香港に続いて第2位、男性は香港、スイスに続いて第3位です。

看護の仕事は、入院から在宅での療養医療まで幅広く、生命の質、生活の質を配慮した快適な入院生活や良質な看護の提供も求められます。終末を迎えた患者さんや家族にも、なおさら配慮が必要でしょう。果たして長女は大丈夫だろうか心配ばかりです。教会で育ったとはいえ、まだ別席運び中であり、信仰も未熟です。親として申し訳ないと責任を感じていますが、やはり人の生命に携わる者として、お道の信仰は絶対に不可欠であると思ひます。看護ようばくの方は大勢おられると思ひますが、長女も将来は看護ようばくとして、患者さんに心の癒しを提供してほしいと思ひます。

近頃、長女に教わる事も多く、私も、一ようばくとして頑張らなければと思う次第です。



「健体と康心」

人は誰しも健康を願わぬ者はない。健康とは、健体(すこやかな体)と康心(やすらかな心)であるといわれる。体を健やかに保つこと。それは親神様から体をお借りして使わせて頂いている人間の務めである。そしてそれ以上に大事なことは、心を康らかに保ち、貸主である親神様の思召に添うて使わせて頂く事である。従つて、体が丈夫でも心が親神様の意思に背き、康らかでなかつたら健康とはいえない。否、たとえ体が病弱でも心が康らかなら、生命は健やかと言えよう。

有名なドイツの大哲学者カントは馬具匠の息子だった。生まれつきのくる病で、背中には瘤(こぶ)、おまけに喘息(ぜんそく)の呼吸困難に苦しんでいた。ある日、町に巡回医師が

来た時、カントの父は自分の病を諦めていた息子を連れて受診に出かけた。そんなカントの顔を見ながら、医師は次のような話をした。その言葉がカントを大哲学者にするきっかけになったと言われる。その医師は、「気の毒だなあ、しかし、気の毒だと思ふのは、体を見ただけの事だよ。体は成程気の毒だ。それは見れば分る。だがあなたの心はどうでもないだろう。心までも背むしで息が苦しいなら別だが、あなたの心はどうでもない筈だ。苦しい辛いと言ったところで、この苦しい辛いが治るものでもない。あなたが苦しい辛いと言えばご両親だってやはり苦しい辛い事だ。だから言え言えほどこ、みんなが余計苦しくなるだろう。苦しい辛いと言うその口で、心の丈夫なことを喜びと感謝に考えればいい。体はともかく、丈夫な心のお蔭であなたは死なずに生きています。死なずに生きていますのは丈夫な心のお蔭なんだから、それを感謝と喜びに変えていったらどうですか?これがあなたを診察した私の診断書だ。薬は何もいらぬ。」

カントは「心は患っていない、それを喜びと感謝に変えよ」との医師の言葉を

深く考え、更には心と体のどっちが本当の自分であるかの考察からカント哲学が展開されたとも言えよう。

献血ひのきしん報告

12月1日(日) 於イオンモール盛岡南
 ・ひのきしん者 9人
 ・献血受付 52人

「ようばく成人講座」開催報告(11月分)

一関4日(月)磐井分 15名(講師 高橋邦和)
 二戸17日(日)北福岡分 21名(講師 大内もとよ)

行事予定 [12月分]

- 1日 第46回少年会総会(10時)
- 2日 主事会(9時)
- 〃 役員会議(10時)
- 8日 女子青年例会(10時)
- 10日 教区報編集会議(17時)
- 13日 婦人会例会(10時半)
- 14日 青年会例会(18時)
- 16日 行事調整・予算会議(10時)
- 19日 岩手教区小史編集委員会(15時)
- 19日 学生担当委員会例会(19時)

3日の大会当日は、晴天の中、本部長は女子青年の若さと活気に溢れた。婦人会長様は「相手の立場になって考えることが大切。かどめの実行こそ心の成人



教区女子青年は、11月1日から4日にかけて「第29回女子青年大会」バス団参を実施し、女子青年15人(現地参加10人)担当者6人、計21人が参加した。一行を乗せたバス



婦人會

「第29回女子青年大会団参」

実施報告



が叶う道である」と話された。式典終了後は東礼拝場で全員でおつとめを勤め、その後各支部の集いに参加した。午後3時おちばを出発した一行は、宿泊所となる名京大教会へ到着。夜はお楽しみBBQで親睦を深め、4日19時頃教務支庁に帰着した。



岩井喜市郎先生

10月30日、講師に士別分教会長・岩井喜市郎先生をお迎えして、教務支庁を会場に教会長夫

「教会長夫妻研修会」開催さる

妻研修会を開催、82人が参加した。岩井先生は、戦国武将真田幸村の「旗幟鮮明」たる生き方を例に、陰日向ない常々の態度として、「我こそは教祖の弟子であり、お道を信仰する者である」との通り方を心がけることが大切であるとされた。そして、そうした歩みの積み重ねこそ、教祖ひながたの道に通じる、世の中を陽気ぐらしへ立て替えて頂く道であると信じる、と話された。午後には、氣仙分教会の鈴木奈美さん、宮古港分教会長工藤裕樹さんの感話があり、それぞれ大きな節の中に、親神様の御守護、教祖の親心を感じ、自らの信仰に拍車をかけて通るお話が、参加者の心に染みこんだ。その後、質疑応答が行われ、豊富な信仰体験に基づく岩井先生の回答に、参加者は大きな勇みを頂いた。



感話 鈴木奈美さん



感話 工藤裕樹さん

に染みこんだ。その後、質疑応答が行われ、豊富な信仰体験に基づく岩井先生の回答に、参加者は大きな勇みを頂いた。

「第12回陽気フォーラム」

開催さる

道の教職員の集いと婦人会は、去る11月16日、教務支庁を会場に、由利道分教会長・佐々木則夫先生(グレープネット「ゆり」代表)を講師に迎え、「第12回陽気フォーラム」を開催、51人が参加した。今回は「不登校対応と子育て」のテーマのもと、イラスト等を使い、不登校の本人とその家族への支援の仕方をわかりやすくお話し頂いた。教会や一般家庭にも通じる内容で、母親は明るく元気が一番、親が上手に本音を伝える大切さを学んだ。また、「オットセイ理論」や「スモールステップ」など、耳



第46回岩手教区団總會

※詳細は次号に掲載します。

参加した女子青年からは「仲間と一緒におちば帰りできた事が嬉しい」との感想が多数寄せられた。この度の団参にあたり、バザーによる皆様方の真実に心から感謝致します。



青年会

台風被災地久慈市で 救援ひのきしん



教区青年会では、11月17日、10月の台風19号で被災した久慈市長内地区で救援ひのきしんを行った。青年会員など7人が参加した。作業内容は、主に床下の地ならしで、床下に入って、泥を取り除いた地面を平らに均す作業を行った。床下での作業のため、体勢がきつくもあつたが、声かけ合い、互いに連繫をとってつとめた。

また、地ならしが終わった後に近所の川沿いで流木等の撤去作業を手伝い、災

害ごみ集積場まで運搬した。被災された方や担当者には喜んで頂き、事故怪我なく、ひのきしんをつとめ終えた。ボランティアセンターは閉鎖されたが、今後も個人的なニーズも含め、必要に応じて機会を設け、ひのきしんをさせて頂くとうと申し合わせている。



祭事部

「雅楽初心者講習会」実施さる

教区祭事部では、11月10日、雅楽に興味を持つ初心者を対象に講習会を開催し、

小学生から40代までの幅広い年齢層8人が参加した。午前10時に開会し、講師に、権谷正一・南平分教会長(笙)、堀一彦・興田子分教会長(龍笛)、菅原誠・青榮分教会長(箏)の指導のもと、各部屋に分かれて雅楽の楽器の説明から、演奏方法、心構えについて説明があった。昼食後、講師による模範演奏は、「越天楽」を調子を変えて3曲。指揮者のいない雅楽は、演奏者同志が呼吸を合わせることの大切さを示された。その後、各管ごとの講習を行い、注意点を踏まえて練習。講師からは、「前回の初心者講習会から繋がり、意味のある講習会になった。上手に演奏するためには練習の積み重ねが大事」と講評をいただいた。一同、終始真剣に受講、15時解散となった。

今回の講習会においても、対象年齢に幅をもたせたことにより、小さい頃から雅楽に興味をもってくれたことや、習得の速さは大人の比ではなかったことなど、大変実りある講習会になった。



災救隊

普代村、久慈市へ出動

災救隊は、うち続いた台風で大きな被



新しいテクニクが紹介され、日常生活で子供への言葉掛けの大切さも学ばせて頂いた。午後の質疑応答では、崎山道範梅乃原分教会長(不登校支援相談員)も加わり、親子の関係や家庭はガソリンスタンドであるなど、不登校や子育ての質問に体験談を交えた丁寧な答えが返された。また、コーヒーマスターもあり、和やかな中にも有意義な講座となった。来年はより多くの若い方々にご参加をお願いします。

害の出た普代村と久慈市へ、前月に続いて11月13日と14日出動した。13日は、普代村からの再度の出動要請を受け、花巻分教会のバスなどで、村のボランティアセンターに37人が集合した。受付後、村中心部の民家に移動し、手分けして床下と家屋周辺からの泥を土嚢103袋搬出した。午後は屋内外のきめ細やかな清掃と消毒作業を行った。この出動は村にとって最後の救援活動となり、住人の安堵と喜びの顔が印象的だった。翌14日は、県社協より久慈市出動を指

示され、16人が参集した。長内地区の数軒の貸家に入り床板剥がし、床下からの泥出し、家屋周辺の泥撤去に従事、搬出は土嚢543袋に及んだ。老夫婦2人での片付けは難しいと困り果てていた現場を、3時間余できれいにして、大変喜んでいただいた。今回も怪我や事故なく、与えられた現場の復旧に真実を尽くすことができた。そして、続いての出動により、災救隊の認知を県内の各行政に拡げさせて頂くこととなった。





青年会

台風被災地久慈市で

救援ひのきしん



教区青年会では、11月17日、10月の台風19号で被災した久慈市長内地区で救援ひのきしんを行った。青年会員など7人が参加した。

作業内容は、主に床下の地な

らしで、床下に入って、泥を取り除いた地面を平らに均す作業を行った。床下での作業のため、体勢がきつくもあつたが、声かけ合い、互いに連繋をとってつとめた。

また、地ならしが終わった後に近所の川沿いで流木等の撤去作業を手伝い、災

害ごみ集積場まで運搬した。被災された方や担当者には喜んで頂き、事故怪我なく、ひのきしんをつとめ終えた。

ボランティアセンターは閉鎖されたが、今後も個人的なニーズも含め、必要に応じて機会を設け、ひのきしんをさせて頂くとうと申し合わせている。



祭事部

「雅楽初心者講習会」実施さる

教区祭事部では、11月10日、雅楽に興味を持つ初心者を対象に講習会を開催し、

小学生から40代までの幅広い年齢層8人が参加した。

午前10時に開会し、講師に、権谷正一・南平分教会長(笙)、堀一彦・興田子分教会長(龍笛)、菅原誠・青榮分教会長(箏)の指導のもと、各部屋に分かれて雅楽の楽器の説明から、演奏方法、心構えについて説明があった。

昼食後、講師による模範演奏は、「越天楽」を調子を変えて3曲。指揮者のいない雅楽は、演奏者同志が呼吸を合わせることの大切さを示された。

その後、各管ごとの講習を行い、注意点を踏まえて練習。講師からは、「前回の初心者講習会から繋がり、意味のある講習会になった。上手に演奏するためには練習の積み重ねが大事」と講評をいただいた。一同、終始真剣に受講、15時解散となった。

今回の講習会においても、対象年齢に幅をもたせたことにより、小さい頃から雅楽に興味をもってくれたことや、習得の速さは大人の比ではなかったことなど、大変実りある講習会になった。



災救隊

普代村、久慈市へ出動

災救隊は、うち続いた台風で大きな被



新しいテクニクが紹介され、日常生活で子供への言葉掛けの大切さも学ばせて頂いた。

午後の質疑応答では、崎山道範梅乃原分教会長(不登校支援相談員)も加わり、親子の関係や家庭はガソリンスタンドであるなど、不登校や子育ての質問に体験談を交えた丁寧な答えが返された。また、コーヒージャービスもあり、和やかな中にも有意義な講座となった。

来年はより多くの若い方々にご参加をお願いします。



害の出た普代村と久慈市へ、前月に続いて11月13日と14日に出動した。

13日は、普代村からの再度の出動要請を受け、花巻分教会のバスなどで、村のボランティアセンターに37人が集合した。受付後、村中心部の民家へ移動し、手分けして床下と家屋周辺の泥を土嚢103袋搬出した。午後は屋内外のみめ細やかな清掃と消毒作業を行った。この出動は村にとって最後の救援活動となり、住人の安堵と喜びの顔が印象的だった。

示され、16人が参集した。長内地区の数軒の貸家に入り床板剥がし、床下からの泥出し、家屋周辺の泥撤去に従事、搬出は土嚢543袋に及んだ。老夫婦2人での片付けは難しいと困り果てていた現場を、3時間余できれいにして、大変喜んでいただいた。

今回も怪我や事故なく、与えられた現場の復旧に真実を尽くすことができた。そして、続いている出動により、災救隊の認知を県内の各行政に拡げさせて頂くこととなった。